

# 紙芝居に夢中になってくれた子どもたち

新潟県小千谷地区少年補導員連絡会

「子どもたちの安全のために、日課の犬の散歩は登下校の時に行っているよ。愛犬にも協力してもらっている」

これは、新潟県小千谷市で活動している私たちの先輩補導員の話です。園児・小学生は笑顔で駆け寄って来るし、いつもは声をかけても無視する高校生でさえ、犬のために立ち止まり、時には頭をなでて、一言二言話をするそうです。子どもたちとのコミュニケーションに、愛犬が大きな存在になっているのです。

それを聞いて以来、私たちも日常生活の中で愛犬とともに、子どもたちを今まで以上に近くに意識しながら、声かけをするようになりました。

こうした小さな心がけとは別に、私たちにも、何かできることはないかと考え続けていました。子どもたちを狙った犯罪が全国的に多発しています。対策として、私たちにも協力できることがあるはずです。

そんな時、小千谷警察署から小千谷小学校二年生の安全学習についての協力依頼がありました。小千谷小学校は、児童数千人を超える新潟県下でも有数のマンモス小学校です。

私たちは、その校区に住み、三人の子どももお世話になっています。警察署で生活安全係長を中心に協議を始めました。最初は、あれやこれやと持ち寄った案を出し合ったのですが、具体的な話となると難しく、結局、おとなの目線ではない、子どもの目線でということに落ち着き、私たち補導員二人が紙芝居、警察署員が関連内容で寸劇をすることに決まりました。

使用する紙芝居は、隣市の長岡サポートセンターから借りて、用意はできました。でも、果たして紙芝居が今の子どもたちに受け入れてもらえるだろうか。自分たちにできるのだろうかと不安が大きく膨らみました。私たち二人とも、紙芝居を見たことはあっても、演じたことはありません。

それぞれの役割分担も決まり、練習が始まると、気持ちに乗ってきて、楽しくなりました。分かりやすく伝えるために大きな声で、ゆっくり話すことを心がけることにしました。

理解された「約束を守る」ことの大事さ

当日は、刑事生活安全課の方々とともに小学校を訪問。期待と不安が半分ずつでした。会場は視聴覚室でした。子どもたちと先生だけと置いていたところ、大勢の保護者の方々も参加していたのです。顔見知りや町でよく見かける人、目が合えば会釈が返ってきます。上気した顔に上の空...の私たちでした。でも、いざ紙芝居を始めると、自然と落ち着き、物語の中に入ることができました。

紙芝居の題名は『おやくそく』です。幼児が母親との約束を破って、一人で公園で遊んでいると、見知らぬおじさんに声をかけられ、怖い思いをして逃げ帰る。反省の中で、母親と交わした“五つの約束”を、もう一度しっかり心に誓う内容です。

紙芝居に出てくる主人公が園児で、内容も絵も幼く、実際に目の前にいる子どもたちは思っていたよりずっとおとなっぽく見えたので、子どもたちに受け入れてもらえるだろうか、心の中に入れていけるだろうか、とても気になりました。

話し始めると、子どもたちは目を輝かせて紙芝居に集中。笑い、楽しんでいる様子に一安心。拍手の中で終わることができてホッとしました。

次は、警察署員による寸劇です。さすがに度胸もあり、大うけして、あっという間の一時間でした。

紙芝居の物珍しさもあるでしょうが、予想以上に子どもたちは正面から受け止めてくれたようでした。保護者にも身近な事例として考えていただき、子どもたちのきはきはした元気な質問も多く出て、私たちが反対に勉強させてもらったような感じがしました。

その後、進級によるクラス替えがあって、まだ紙芝居を見ていない子どもたちも多く、「再び同じようにやっていただけないでしょうか」との依頼がありました。喜んでお受けしたのは言うまでもありません。

こうして、父兄や子どもたちに“地域の安全”に対する意識が継続され、少しずつ大きな輪になっていっているようです。これは、やりがいにつながっています。

紙芝居も二度目となると、子どもたちの顔を見回し、途中で「みんなだったらどうするかな？」などアドリブが出る余裕も出てきて、私たちも楽しみながら演じることができました。その後は、刑事生活安全課長による交通安全ルールの話でした。



## 「紙芝居は理解しやすく、興味ある伝達方法」

後日、子どもたちから寄せられた感謝の手紙を見せていただきました。一生懸命に書いたかわいい文字にふれ、紙芝居を通して感じ取ってくれたことの大きさと、影響力に驚き、感動するとともに補導員としての自覚を求められたような気がしました。

子どもたちからの手紙です。

「紙しばいがたのしくて、もういっぱい、みたいです。ほどうのわたり方とか、ぼくたちのしつもんにも、答えてくれてありがとう」

「(紙芝居の)おやくそくを見ていた時、約束を守ってないこともあったので、今度からは守ります」

「家にかえってから、お母さんにお話ししました。お母さんが『おねえちゃんにも、おしえてあげてね』といったから、おねえちゃんにも話しました。かぞくみんなで、こうつうルールを守っています」

後日、小学校の校長先生と話をする機会がありました。その折りに「送り手も受け手も、難しくなりがちな点を、小学校低学年に理解しやすく紙芝居という興味ある方法で伝えたことが良かったのではないだろうか」と、評価していただきました。お褒めの言葉をいただくほど立派なことをしたのかと考えたとき、少し恥ずかしい気持ちになりましたが、ここは素直に喜ぼうと思いました。

補導とは、文字が示すように「補い導くこと」と考えています。子どもたちの足らざることを補い、見守っていくのは、私たちおとなの責任です。地域の協力を得て、日々の小さな目配り、気配り、声かけが大きな力となり、子どもたちの健やかな成長を助ける環境づくりに役立ったと思っています。

